

科目	小 論 文
----	-------

芸術文化学部 芸術文化学科

(募集区分b)

注 意

1. 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題は、4ページにわたっています。
3. 解答用紙は1枚、下書用紙は1枚です。
4. 試験開始の合図があってから直ちに問題冊子、解答用紙、下書用紙を確認し、不備がある場合は監督者に申し出てください。
5. 解答用紙の所定の欄に、受験番号を算用数字で記入してください。氏名を書いてはいけません。
6. 解答は、すべて解答用紙の所定の欄に記入してください。解答用紙の所定の欄以外に記入した解答は、評価(採点)の対象としません。
7. 試験終了後、問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。

「テキスト1」は近未来を扱ったSF小説の一節、「テキスト2」は観光者の欲求や動機について書かれた解説の一部分である。「テキスト1」を読み、「テキスト2」を参考にしながら後の間に答えなさい。

「テキスト1」

——この小説で舞台となっている社会では、自律型のアカウント（ネットワーク上で自分の代理のように振る舞う人工知能プログラム）だけが仮想的に旅に出かけてその様子を記録・発信したり、発達した仮想現実装置により自宅に居ながらにして旅先の風物を体験したりするような、「仮想旅行」が普及し始めている。「私」は、しばらく疎遠だったかつての友人（トラン）に誘われ、トランとともに仮想旅行に出かけるためのレンタルキットを取り寄せたところである。

その宅配伝票はボックスに直接貼られていた。再生紙ではあるけれども美しくデザインされたスライドボックスを慎重に開けると、それぞれの形に成形されたインナートレイにきれいに嵌^{はま}ったいくつかのガジェット（注1）が入っている。骨伝導音声装置がついた耳掛け式の眼前スクリーンの下部分、ノーズフィッター（注2）には小さな穴がいくつか開いている。あとは数枚のステッカー状の振動ペルチェパッチ（注3）と、それを貼るべき場所のかんたんな図解が刷られた解説カードが入っていた。インナートレイを外すと、折りたたまれたシリコン製のシートが入っている。広げると真ん中に十字があり、一メートル四方の正方形になっていた。床に敷いて真ん中に立つためのものらしい。四辺のうちの一边の縁に色がついていて、そこに

あわせて腰を掛けるためのボックスを配置しろ、ということのようだった。キッチンに置いていた踏み台を持ってきて置く。カードの裏側の模様をスキャンすると、自分の端末に専用のアプリが入り、製品のパーソナライズが始まった。ガイドに従ってあわててスクリーンとパッチを身に着けシートの中央に立つ。

スクリーンには、自分が本当にいる所とは別のシンプルな部屋が映し出されている。いくつかの約束ごとが画面に文字で浮かび、音声でも再生される。そのガイドにあわせて私は手を片方ずつあげては伸ばし、片足ずつで立ち、その場で何歩か足踏みし、踏み台に腰掛けたり立ったりし、指定された言葉をしゃべった。自分の名前や、はい、いいえ、というふうな指定されたいくつかの言葉を、音声の後に続いて口にした。好きな食べ物、と問われ、とっさに思いついて糖葫芦^{タンフルー}と答える。目の前につやつやに飴掛け^{あめ}された山査子^{さんざし}の串刺しが現れる。ノーズフィッターの穴からふつと甘いにおいがする。手を伸ばして掴むと、てのひらにかすかな重みがかかる。一粒口に含むと、耳元にパリパリと薄い飴のはじける音がして、甘酸っぱい香りが強く明確になった。確かになにかを食べているような気にはならなくもないけれど、なんとなく白々しく感じられてしまっ、こういうやりかたでの食事は私にとってあまり楽しい経験にならなそうだった。慣れたらこんなことも楽しめるようになるんだらうか。

視界の空間に、ドアを開けてくださいという文字が浮かぶ。部屋を見回して、見つけたドアを開けると外は吹雪だった。パッチが振動し、強い冷気が感じられる。人体の数か所のある決まった場所の温度を調整すると、脳の判断によりまるで全身がその気温に包まれたようになるのかもしれない。振動も、平衡感覚をつかさどる内耳に近い部分にだけ与えれば、視覚や他の情報によって全身が振動して感じられた。これらのことは、人体の思わぬバグ（注4）を確認する作業みたいで楽しかった。こ

れらは、道具のほうのパーソナライズという名目で、実際のところは自分の体のほう、知覚のほうを機械のシステムに順応させる作業なのだと思えた。

自律型のアカウントだけが旅に出るぶんには、これらのガジェットはまったく不要だった。私に似た振る舞いをするアカウントが勝手に彼女と旅立ってくれるだけだ。あとから私とそのログを見ながらトランと旅の思い出を共有したっていいし、なんならそれさえBOT（注5）の返信に任せて、放っておいたっていい。

私は出発の日のぎりぎりまで、自分自身でこの妙な道具たちを身に着けて作りものの旅に行くかどうか、迷っていた。

高山羽根子「没友」^{ぼつとも}（『AIとSF』所収）から。一部改変した。

（注1）ガジェット…携帯型の電子機器。

（注2）ノーズフィッター…鼻当て。

（注3）ペルチエパッチ…熱を発生あるいは吸収することで温度感覚を変化させる装置。

（注4）バグ…本来はコンピューターのプログラム上の不具合や誤りを意味する。ここでは比喩的に使っている。

（注5）BOT…この小説中では、送られてくるメッセージに対して自動的に本人のように代理返信する人工知能プログラムのこと。

「テキスト2」

観光者の動機や欲求は、非常に多様であり、そして観光者は複数の動機や欲求を満たすように行動する。そして、このように多様な観光者の動機・欲求をいかに測定するかは、観光者の動機や欲求を研究する上で大きな問題となってくる。

(中略)

いずれの研究においても、人が旅行をする動機として、①日常生活のストレスから解放されること、②新しい経験をするこ
と、③同行者との関係を深めること、④精神的・能力的に自分を成長させることが挙げられており、これらが大まかな観光者
の旅行動機・欲求であると考えられる。そして、観光者一人ひとりの旅行動機は、これらの様々な動機の組み合わせによって
成り立っており、観光者が旅行に何を望むかは、その組み合わせによって異なってくる。

小口孝司・花井友美「観光者の欲求・動機とパーソナリティ」『観光学全集 第4巻 観光行動論』所収)から。

問 「テキスト1」に描かれたようなテクノロジーが現実化したとき、人々はこのような「仮想旅行」に積極的に参加するだ
ろうか。「テキスト2」に示された、人が旅行をする動機と関連づけながら、自分の考えを800字程度で述べなさい。

令和七年度 学校推薦型選抜Ⅰ 帰国生徒選抜 社会人選抜

芸術文化学部 芸術文化学科 (募集区分b)

科目

小
論
文

解
答
用
紙

総 点

受 験 番 号

10

20

34

800

900

750

600

450

300

150

見本

下書用紙